

人気度 No. 1 の化学実習の教育手法とは

○木村 泰 谷口智也 大西英文
(昭和医療技術専門学校)

Key words : 伸展教育、やる気度、109分の1単位、価値ある変化

【目的】第1回日本臨床検査学教育学会において、伸展教育のメカニズム解明する目的で教育シートの開発を行い、その解析を報告した。その中で、全授業科目に対するやる気度調査では、化学実習が第1位であった。そこで、今回、その要因の一端を解明するために、教育手法の観点に立ち、検討を行った。

【対象及び方法】化学実習担当者2名(兼任教員、教員歴共に28年)、1年次:化学実習1単位(45時間)、平成17年10月1日、平成19年3月1日に行った第3学年生へのアンケート調査、平成18年度の化学実習シラバス(一般目標、到達目標、学習方法、評価方法、化学実験書)、授業の進め方等について、学生並び教員双方の意見調査を行う。

【結果】やる気度が高まる要因として、①授業説明がとにかくわかりやすく奥深い、②疑問点を学生に考えさせながら解決してくれる、③誤った結果であった場合には、神技的な早いスピードで、正しい手技を目の前で行ってくれる、④努力すれば目標に到達できる、⑤すべての学生が理解できるまで教えてくれる、⑥失敗したとき、乗り越えるチャンスが与えられる、⑦フィードバックが常にある、⑧威圧的でなく、学生に公正である、⑨レポートをしっかりと見てくれる、⑩必ず実習の終わりに口頭試問があり、合格しなければならない、⑪先生の人柄の良さや技能の高さを感じるなど、さまざまな回答を学生から得た。一方、専任教員の意見は、授業の始まる前の

準備、指導者間の話し合いを十分に行い、学生に目的と操作手順を明確に伝えている。又、前回の内容や次回の内容との連続性や学生の準備状態も考慮されている。又、実習中は、常に学生の側に行き、問いかけ・質問への受け答え・進行状況の把握・危険回避等を行っている。実習の最後には、口頭試問が行われ、到達目標とする内容が習得できているのか問われる。学生に考えさせることに重点を置き、理解困難な学生には、先生全員で最後の一人まで教える。

【考察】本校の三年間教育(109単位)の中で、最も人気度が高い科目は、一年次に実施される1単位(45時間)の化学実習である。単位数では、わずかに109分の1に過ぎないが、極めて価値ある教育科目となっている。人気度の高い科目を分析すると、そこには共通点が認められ、幅広い観点から良い意見が数多く聞かれる。その内容を集約すると、まさに先生の間像そのものを写し、学生、専任教員に『価値ある変化』をもたらしている。教員の情熱ある姿勢こそが学生、教員そして学校全体を変え、磨かれた輝きある学校となる。魅力ある教育者の人財(人材)の多さが、学校の発展に大きく起因する。1年次の僅か1単位の実習が、学生の心に強く残り、3年次になっても忘れられない科目として生きていることは、まさに教育の鏡であり、学校の宝である。

連絡先 : igi-rinken@showa.ac.jp

